

## 第1回 八幡市総合計画審議会 議事要旨

■日 時：平成29年2月17日（金） 14:00～17:00

■場 所：文化センター 2階 リハーサル室

### ■出席者

【委員】（32人中31人）

家村 咲栄 委員、石川 純 委員、泉谷 透 委員、岩成 功 委員、岡本 圭司 委員、岡山 敏哉 委員、尾形 良治 委員、沖田 悟傳 委員、奥村 正明 委員、加藤 博史 委員、川原 絵美 委員、河原崎 保 委員、小林 敦 委員、高田 稔幸 委員、田中 恆清 委員、谷口 栄一 委員、塚本 貴昭 委員、辻村 修太郎 委員、出嶋 隆富 委員、豊田 勝代 委員、中川 一 委員、能瀬 巖 委員、橋本 行史 委員、藤田 美代子 委員、古市 久子 委員、政 博之 委員、松下 順英 委員、三尾 昌樹 委員、溝口 知男 委員、八木 英夫 委員、吉田 元男 委員

【市役所】

堀口 文昭 市長、丹下 均 副市長、谷口 正弘 教育長、以下部長級職員

【事務局】

足立 政策推進部長、浅川 政策推進部参与、武用 政策推進部次長兼政策推進課長、曾我 政策推進部参事、田制 政策推進課係長、堀川 政策推進課係長

### ■欠席者

桑島 偉倫 委員

（代理出席：寺内 雅晃氏（国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所 副所長））

### ■次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 出席者紹介
4. 会長、副会長選出
5. 諮問
6. 審議会の公開
7. 協議・報告事項
  - （1）第5次八幡市総合計画について（資料1・2）
  - （2）第4次八幡市総合計画の総括について（資料3）
  - （3）第5次八幡市総合計画の基本目標の設定について（資料4）
  - （4）意見交換

### ■配布資料

- <資料1> 第5次八幡市総合計画の策定について
- <資料2> 第5次八幡市総合計画策定スケジュール（予定）
- <資料3> 第4次八幡市総合計画の総括（概要）
- <資料4> 第5次八幡市総合計画（基本目標等）（素案）
- <参考資料1> 八幡市のまちづくりのための「市民アンケート調査」（主な結果）
- <参考資料2> 八幡市のまちづくりのための「市民アンケート調査」グループインタビュー（主な結果）

## 1. 開会

## 2. 市長あいさつ

総合計画については、ご案内のとおり、平成 23 年度の地方自治法の改正により、自治体によっては必置ではなくなり、市長の任期に合わせて 4～5 年で構成をする市もあるが、八幡市として考えた結果、皆様のお知恵を拝借しながら、従前通り 10 年くらいの計画を作るのが良いだろうと思っている。基本的には第 3 次総合計画の都市形成骨格図の、北側には京阪八幡市駅と三川合流を北部の広域交流拠点として設定し、3 月 25 日に「さくらであい館」がオープンし、形が目に見えてきた。南部は高速道路と住宅もしくは産業関係の施設といった土地利用を想定している。新名神高速道路は、今年の大規模連休明けには八幡・城陽間が開通する予定である。目に見える骨格ができた中で、次の新しい総合計画を策定しようとしている。ベースは大きく変わらないと思うが、具体的にはハード・ソフトを含めた関係をしっかりと検討していかなければいけないと思っている。基本構想の策定義務はなくなったが、条例により総合計画の策定を義務付けている。一方で、ご審議いただいた中で、市の推進体制として庁内的には副市長以下の部長級の職員で構成する総合計画策定委員会、課長補佐レベルの日々一線で業務に従事している職員で構成する総合計画策定幹事会を設置し、内部体制としてもがんばっていきたいと思っている。本年は 11 月 1 日に市政施行 40 周年を迎える。これまでも実りを繰り返す節目の年であると考えている。

また、3 月に「さくらであい館」がオープンし、4 月からは地方創生の取組の 1 つである京都府と山城地域 12 市町で取り組む「お茶の京都」のターゲットイヤーを迎える。さらに、夏までには新名神高速道路が一部開通し、平成 35 年度末には全面開通予定である。市としてのポテンシャルは高まってきていると思うが、一方で厳しい財政状況は続く。そうした中でも夢を持って、皆様と共に第 5 次八幡市総合計画の策定に全力を捧げたい。ご多忙の中大変恐縮ではあるが、ご指導ご審議いただくよう、よろしくお願い申し上げます。

## 3. 出席者紹介

## 4. 会長、副会長選出

八幡市総合計画審議会規則の第 4 条の規定により、会長 1 名、副会長 2 名を互選により選定。

会 長：関西大学政策創造学部教授 橋本行史 委員

副会長：大阪工業大学工学部教授 岡山敏哉 委員

副会長：龍谷大学短期大学部教授 加藤博史 委員

## 5. 諮問

市長から八幡市総合計画審議会会長あてに諮問を実施

## 6. 審議会の公開

会議の公開を決定

※原則公開とするが、今後、議論が進んできた段階で、支障が生じるような場合が発生した際は、その都度判断することとした。

※傍聴希望の方の入室を認め、傍聴者入室

## 7. 協議・報告事項

会長 : それでは協議・報告事項に入る。事務局から資料の説明をお願いしたい。

事務局 : (資料1・2により説明)

会長 : 資料1は、市長のご挨拶とも関連していたが、総合計画の策定は地方自治法の必置から任意に変わったが、将来像を作る重要な計画のため、本市は条例に位置づけて引き続き総合計画を策定する、というもの。資料2は今後の総合計画の進行のスケジュールの説明であった。

事務局 : (資料3・4について説明)

会長 : 休憩の後、委員の皆様からご意見をいただきたい。

(休憩)

会長 : 資料3に基づき、目次の各章・各節について説明があった。たくさん内容があり、分からなかった部分もあったかもしれない。資料4は今後策定を目指す八幡市総合計画についての説明。みなさんのご意見をいただくにあたって、基本的な総合計画の意味や策定の進め方等を含めてご質問等をいただき、全員が共通理解のもとに第5次総合計画の具体的な提言を出していきたいと思う。まず、全体と第4次総合計画の総括についてのご意見をいただきたい。

委員 : 資料3の第4次総合計画の総括の中で、未達成であったものは、第5次総合計画の中に盛り込んでいくという考え方でよいか。

事務局 : 未達成のものは当然課題として認識しており、引き続き取り組んでいく事になると思う。第5次総合計画では、テーマに応じてどのような指標が良いか再度議論の必要があると思っている。

会長 : 未達成のものは状況を踏まえながら、引き続き盛り込むことを検討するということであると思う。

委員 : 細かい項目を一つ一つエビデンスを示して説明しておられたが、未達成の部分で評価のデータはあるか。全部を総合的に見ての評価を知りたい。相互に関連していて、次につなげておられるとは思いますが、改めてお聞きしたい。

- 事務局 : 子ども子育て支援センターの参加人数は計画内ですくすくの杜の開設があり、利用者が一気に伸びた状況にあり、保育園の待機児童率は引き続き0%で運営している。一つ一つは個別には申し上げにくいですが、子育て支援は重要施策として取り組んでおり、十分取り組んできたと言えると思う。
- 会長 : 市長の最初のご挨拶で、ポテンシャルが上がったというご発言があったが、第4次総合計画を振り返っていかがか。
- 市長 : 第3次・第4次総合計画で骨格的な都市形成図が、具体化されてきた。石清水八幡宮も国宝指定されてオーソライズされてきた。新名神についても、開通予定年度を具体的に示せるところまできた。「こうあったらいいなあ」という状況から、「ほぼできるよ」というレベルに変わりつつある中で、市としてどういう形のまちづくりや土地利用を図っていくのか。その上で、民間にお任せすればそれなりのものができると思うが、街としてどういう位置づけをしていくのかを考えていかなければならない。東部地区は標高が低く、もし木津川が決壊すれば男山団地などの西の方へ避難してもらわなければならない。例えば、インターチェンジ周辺にロジスティクスの30~40mの施設が建設できれば、垂直移動で避難できる。単純に開発ということではなく、地域の課題を併せて開発できるまちづくりも考えていかなければならない。「可能性」から「数年先にはこうなる」と言える状況になってきており、そういう意味でのポテンシャルがかなり上がってきているのではないかと思っている。
- 会長 : 総括に限らず第5次総合計画の基本構想に係る感想やご質問・ご意見等をいただきたい。
- 委員 : エビデンスの話や事務局から指標という話も出た。結果は十分ご説明いただいて、しっかり取り組んでいただいているのはありがたいことだが、それが何を目標や目的にしてきたのか、という点が大事。6つの大きな課題と目標が示され、これはこれで素晴らしいと思うが、この6つを串刺しにして統合化する大きな目標があるとするならば、その一つは市民参加ではないかと思う。市民の参加がどれだけ進んだのか、というエビデンスを可視化できる指標があればいいと思う。というのも、どんどん地域活動や協働的なことに参加することから回避する傾向が、若者も含めて進んでいる。自分たちが参加・参画して地域を良くしていく、まちづくりをしていく、という事をもう少し明確に示すことはできないか。高齢者も元気な方もかなり増えており、健康長寿のためにも団塊の世代の参画や中学生の活用も含めて、多様な市民が会う場所についても、10年前、5年前と比較してどう進んだか、逆に閉じる力が強まってきていないかどうかなど、1つの指標にしてもらえたらと思う。
- 委員 : 中学生の話が出たが、毎朝小学生や中学生の見守りを自主的にしているが、子どもだけでなく、当たり前前ができない人が多くなっている。知っている人がいても挨拶ができない人が非常に多く悲しく思う。一緒に行動

していく中で寄り添っていかねばならないとも思うが、こちらから手を出して寄り添えば寄り添うほど避けられてしまう。当たり前と思うことが、当たり前でなくなった時代というのが今の時代かなと思っており、それが子どもにも反映されている。「おはよう」と言うと、小学生はまだ返してくれるが、中学生は全然返してくれず無視されてしまう。人と人の触れ合いが薄くなりつつある世の中で、もうひとつ悪くなるような気がしてならないが、これを阻止する方法を考える必要がある。

会長 : 昔の言葉で言う「躰」であろう。私が住む他の地域でも、塾帰りの中学生を見かけるが、道路にゴミを捨てている光景を目にする。学校教育なのか家庭教育、あるいは社会の教育なのか、私が思っていることもお話しいただいた。それを総合計画または総括に含めるのか、今後検討していくことになると思う。

委員 : スマートウェルネスシティの関係で少し発言したい。これから人口減少に向かっていくわけだが、これまでの計画といえば、人口増大のもとに進めていこう、というものだった。今後は減少していく中でどうするか、という計画になる。健康寿命を延ばしたり、産業立地や雇用を増やしていくというのは大変すばらしい。人口減少にいかに対応していくのか、ということを基軸にした総合計画になればいいと思う。その中で、人口が減少し高齢者が増えるといった財政の問題があり、これにどう対処していくか。京都府の中でも北部の市に比べればまだ恵まれている。北部の市はもっと大変な減少率であり、自然減だけでなく、社会減も大きい。新しい第5次総合計画では財政も含めて高齢化社会への取組をしてもらいたい。

会長 : 人口減少に対する対策や政策は、日本ではまだまだ検討されていない。国も人口減少対策と言いながらも振興政策が多く、矛盾したところもあり、今後検討されていくことになると思う。

委員 : 環境市民ネットは、平成14年に環境基本計画に基づき、市民及び事業者と行政との協働参画で設立され、活動をしている。当初は熱意もあり活動も活発だったが、参画メンバーが増えず、逆に高齢化に伴い減っていくという状況にある。八幡市に住んで40年になるが、高齢者が増えているが、元気な高齢者が沢山おられる。介護支援サポーターとして社協のボランティア活動や、松花堂のボランティアなどもやっている。高齢者でこういったことに参加したいという人はたくさんいるが、どうして入ったらいいかわからない、という人が多く情報発信が重要であると思う。

会長 : 高齢者参加の仕組みと情報発信ということだろう。

委員 : 防災と防犯の話についてお聞きしたい。八幡市に住みたくない、市外に移りたい理由に「治安に不安があるから」という結果が出ている。第4次総合計画の総括で防犯の箇所を見てみると、犯罪認知件数は減少しているし、防犯の活動が促進されている状況で、なぜ防犯・犯罪の面で市民の不満が高いのかわから

ない。目標は達成している、あるいは件数は減少しているが、他の市町と比べた相対的な比較をお聞きしたい。

防災に係る河川整備については、市単独では河川の整備や堤防の管理・強化は難しく、府、国交省と連携しないといけない。防賀川の堤防の延長の進捗等は府の政策であり、これを市の計画の中に入れてよいのか。市単独でやっていくことを項目として盛り込むことは大事だと思うが、連携してやっていくところの項目をどう総合計画の中に盛り込むのか、その辺を検討していただきたい。資料によると、災害対応のヘッドクォーターであるべき市役所本庁の耐震が未対応である。命を守る施策や対応をするべきなのに、なぜこのような状況であるのか教えていただきたい。

会長 : 治安について改善しているのに、まだ市民の不安は解消されていないということ。市独自で行えない事業について今後どう扱っていくのか。耐震工事が進まない理由はなぜかということなど、今後の事も含めて検討する必要がある。なお、アンケートの取り方にも課題があるのかもしれない。

事務局 : アンケートの結果であるので、イメージにも関わってくると思うが、10年前から比べるとは達成している目標が多く取組は進んでいると思う。しかし、市民にとっては満足できない部分もあるかと思う。

委員 : 近隣市と比べて、犯罪件数が多いからという理由で、市外へ移りたいという考えが出てくるのではないか。

会長 : アンケートだけでなく、背景を含めてもう少し深く分析する必要がある。

部長 : 本市としては京都府と連携しながら施策を進めている。連携する部分は、府に対する要望を行うにあたり、要望する以上は、市としても動いていかなければならないため、総合計画に盛り込んだという経緯がある。それを、今後総合計画にどういった形にするかは検討課題だと思う。

耐震関係については、拠点となる市庁舎については耐震化ができていない。平成29年度から平成32年度の間、国から熊本地震を受けて財源措置がされるようになった。財源措置が適用される間に検討していかなければならないと考えている。

委員 : 第4次総合計画もそうだが、第5次総合計画も市民に認知され、活用されていないといけない。アンケート調査では、第4次総合計画の認知度は聞かれたのか。

事務局 : 認知度は聞いていない。

委員 : 認知度を聞いていないということ踏まえての提案だが、総合計画はまちづくりや市民の生活等いろんな項目を網羅して、各項目に対して目標値を設定し、目標が達成されたかどうか管理していくのは非常に重要なことだと思う。第4次についてもたくさんの指標が示されているが、評価の仕方等まだ不十分な部分がある。例えば、第1章第5節の国際理解の小・中学校の外国人講師の派遣

数では、市民が国際理解を実感できているかという国際交流の度合いは分からない。総合計画はあらゆる項目を網羅することではあるが、全ての項目について深く設定するのは労力がかかり大変だと思う。第4次ではまちづくりの将来像を「自然と歴史文化が調和し 人が輝く やすらぎの生活都市」と掲げていて、第5次ではどういう将来像が設定されるか分からないが、将来像（キーワード）から市民の実感につながるような目標指標を設定し、市民から、八幡市のイメージは高まったと言えるかどうか、総合計画が進んだかどうか、綿密に計画し、管理をしてはどうか。第4次総合計画では、ボトムアップはできていると思うが、市民の八幡市のイメージにつながる可視化という観点が欠けている。

会長 : 全項目については多大な事業になるため、一定項目、市民が評価できる指標を設定し取り組んでいってはどうかというご意見であった。

事務局 : アンケートで認知度は聞いていないが、政策の 39 の分野について、「第4次総合計画の目指すべき姿になっていますか」という設問でのアンケート調査を行っている。資料には掲載していなかったため、委員のみなさまには改めてご提示させていただきたい。

委員 : 保育園や子育て支援については大変充実していると思うが、小・中学校は未達成の指標が多く、特に学力の指標において達成度が低い。八幡市=学力が低いという認識がある。子育てがしやすいと思って引っ越してきても、中学校の学力が低いということで引っ越し人がいる。最初に子育てしやすいと思って、学力が低いことから引っ越し人がいることが淋しい。小・中学校の学力向上にもう少し力を入れていただきたい。

教育長 : 厳しいご意見をいただいた。本市の小学校の学力テストはほぼ全国レベルだが、中学校は全国レベルを少し下回っている。それに対しては、市長にも予算措置をしていただけて力を入れているところである。学校の教職員も含めて子ども達の学力を上げていく事の重要性は十分に認識しているため、学力向上に向けて考えていきたい。

委員 : 子ども子育て会議では、学力の面だけでなく、あいさつもちゃんとできる賢い子どもを育てる、という決心をしている。そのためには何をしたらいいのか必死で考えている。教育の充実が目的になっており、生きる力を含めた一生涯をかけて生き抜く力を身につけてもらいたい。あいさつできないのは中学生だけではない。市長がおっしゃっていた「ポテンシャルが上がってきた」というのは、やろうという施策に関係している人及びその周辺の人々のポテンシャルが上がっているのではないかと思う。そのポテンシャルは部課長や市役所の方々、委員の方々、現場の方は一生懸命やっておられると思うが、それが、市民へのイメージ形成につながっていない。

約 10 年前よりかなり幼児の子育て環境は進んだ。待機児童ゼロもすくすくの

杜も利用されていて素晴らしい。そういうことが認知されれば変わっていくかもしれない。

犯罪の話やイメージは、一つ悪いことがあると口コミで広まってしまい、それもどこかで断ち切る必要がある。第5次総合計画に盛り込んでいくとすれば、中間伝達体制というものをどのようにしていくかを検討していただきたい。

- 委員 : 幼稚園や保育園児の登園や降園時、特に登園時において、車が集中するため、大変危険であるため、対策を考えていただきたい。
- 委員 : 環境基本計画の第2次の中間見直しをしているという観点から、基本計画の中に関係する項目がかなりたくさんあるので、環境基本計画ともリンクさせながら検討していただきたい。環境基本計画の将来像として「人と自然が共生する環境にやさしいまち」として、わかりやすいイラストのパンフレットなども作られ、周知・啓発が行われている。総合計画にも「共生」という言葉が多く出てくるが、認識を共有していくことが必要であると思う。
- 会長 : レベルを上げてほしい、また、非常に複雑化する中で、他の項目と上手に調和させ盛り込んでいく必要がある、というご意見であったように思う。
- 委員 : 市民にとって分かりやすく、イメージが明確になる表現にまとめていただけたらということだと思う。拠点・拠点は整備されてきているが、ネットワークで結ばれていない箇所がたくさんあるように思う。
- 委員 : スケジュールに則って策定していくにはかなりハードになると思うが、第4次総合計画（総括）と第5次総合計画の素案の新旧対称表があれば、達成度や関連性等も分かりやすく、委員として意見の述べ方も変わってくると思う。
- 委員 : 市からの説明の中で、市外に移りたい理由として1位が「治安に不安がある」で、前回と同じ結果となっているが、これが市全体のイメージと捉えるのは危険な考え方かと思う。安全と安心（感）は違う。犯罪や刑法の認知件数、検挙数の数字は出せるが、これによって市民に感じていただくことができるのは「安全」であって、「安心感」は提供できない。安心感が実感できないのは、八幡市だけでなく、全国的な傾向である。引き続き「安心感」の方も感じていただけるよう努力していく。
- 委員 : 人口が減少していく中で、人口を維持していくには自治体間の競争になる。鉄道会社にも沿線間競争がある。自治体としての個性をどうやって出していくかが大事。「子育てがしやすい」というイメージが広がれば、他市から八幡市に人口が流入してくる要素がある。待機児童ゼロや子育て支援センターは素晴らしいことだと思うし、学力の維持・向上は引き続き伸ばしていただきたい。なお、地域によっては学力が高い地域もあると聞いている。元気な高齢者が多く、高齢者の活躍の場を提供すべき。高齢者のいろいろな経験を小さい子どもに教育するといったことが必要かと思うが、そういった視点での取組を第5次総合計画でもされていくのかということもお聞きしたい。

- 会長 : 当然、第5次総合計画には入ってくるものと思う。
- 委員 : 報告の中に八幡市駅前の活性化の話が出ていたが、お茶の京都のプロジェクトの中でも同じような意見が出ていた。そのように、他の会議の意見も第5次の計画に反映されていくのか。
- 事務局 : 他の会議や他の計画で進んでいるものは当然次期計画に反映させていきたい。検討状況は提示しながら進めていきたい。
- 委員 : イメージとか不安という言葉が出ているが、実態とイメージの乖離について何か良い手はないかな、と思っている。便利で良いまちだとは思いますが、あまりイメージが良くない。イメージアップが図れれば、もっと良いまちになると常々考えている。八幡市駅前の再開発等を中心的にされればよいと思う。
- 委員 : 個人的にボーイスカウトの隊長をしており、子どもと触れ合う機会が多く、公園とか緑化設備とか整備されてきている。現状、子どもたちが横の繋がりだけになって、縦の繋がりが少なくなり、関係が結べなくなっている。公園の活用等を通じて高齢者から子どもまで、気軽に縦の関係が築ける市になっていけばいいと思う。
- 委員 : 総合計画そのものが地方自治法の改正で義務でなくなり、さらに住民に認知されるように、といった話があった。部門別の計画が別にある中で、総合計画の中ではあまり細かく個々の部門別の項目には触れず、骨の太いフレームを作り、細かい目標は部門別にゆだねる、というのも新しいあり方ではないか。もう一点、細かい点だが、第5次の期間中に東京オリンピック・パラリンピックがあって、それとスポーツを結び付けるのはイメージとしては分かりやすいが、2021年にワールドマスターズゲームが関西で開催される。そちらの方が身近に生涯スポーツや観光とつながり親和性が高いのではないか。
- 会長 : 総合計画を策定にあたり、各分野の数値目標の達成について、市民と対話するという方法もあり、兵庫県の川西市もされているが、多大なエネルギーを要し、評価するだけで疲れてしまう可能性もある。総合計画は骨太でいいのでは、というご意見を受けて、新しい総合計画の作り方のアイデアがありましたらご意見をいただきたい。
- 委員 : 10年前に比べ、情報の伝わり方が一番変わってきている。インターネットの普及が大きく進んだ。極端に言えば、例えば、このような分厚い冊子を作る必要があるかどうか。最終的な話だが、認知していただきやすいアウトプットの仕方にしてはどうか。
- 会長 : 市の職員も忙しいので、新たに仕事が増えるとなると問題だが、一方、従来と同じ作り方でなくても良いのでは、ということだと思う。従来通り作っていけば安心感はあるのは分かるがどうか。
- 事務局 : 男山地域再生計画も通常の計画の作り方と異なり、最初と最後だけ設定して、アプローチにはかなり自由度を持たせている。総合計画もいろんな可能性の作

り方ができると思うが、個別計画との関連もあるので、検討してみたい。

会長 : 総合計画は総花的、金太郎飴的と言われるが、様々な個別計画を統合している、  
という意味では実現に近いものであって、そういう意味では価値はある。そこ  
を欠き、理想像に特化してしまうと、ある意味わかりやすいが絵に描いた餅に  
なりやすい。

委員 : 男山には男山地域再生計画があり、それを住民に伝える術として、毎月発行し  
ている「だんだん通信」の中で再生計画をかみ砕いて情報を伝えるようにしたり  
、住民のコラムを掲載したりしている。もう少し小さな単位で考えていくこ  
とも重要だと思う。

委員 : 自治会で現在力を入れているのは防災関係。私の住む地区の場合、地震の際は  
旧東小、水害の場合は男山の5小が避難場所になっているが、実際に災害が起  
こった場合、そこまで避難ができるのか不安がある。男山までは普通に歩いて  
も30分以上かかり、急な坂を登って行く必要もあり現実的に、その場所へ避難  
できるのかという問題がある。避難所になっている体育館のトイレが和式で特  
に高齢者は使いにくく、いざという時に果たして機能するかと思う。防災に関  
してのお考えをお聞きしたい。

委員 : 市ではなく、地区レベルで防災計画・避難計画を作る、ということになってき  
ている。指定された避難場所に避難するという話ではなくなりつつある。指定  
された避難場所には毛布等の備蓄義務があるため、二次避難に使用していただ  
ければいい。そういうものを作る過渡期であるので、地区防災計画についても、  
第5次の中で考えて欲しい。

市長 : 兵庫県佐用町で、安全な場所から避難所に向かったがために側溝に流されてし  
まうという痛ましい被害があった。木津川が決壊した際には程度に応じた避難  
が必要。地域によって異なるが、土地利用の関係で開発時に高い施設を建設し、  
避難できる施設をセットでやってもらうことも考えられる。避難場所への距離  
の事もあるが、いずれにしても地域によって程度問題を考えなければいけない。

会長 : 今後さらにご検討いただくとして、第5次総合計画の基本構想を深めていくに  
あたり、ある程度柱をたてるため示されている基本目標に関連して、ご意見・  
ご議論いただきたい。なお、ワールドマスターズゲームの意見が出たが、これ  
を反映させるなら基本目標の3になるだろう。

委員 : 情報発信については、広報等で市がもっと頑張れば、総合計画の中身が市民に  
伝わると思うし、市民が普段思っている事や感じている事とのギャップも埋め  
られると思う。市役所の頑張りをもう少し入れて欲しい。

委員 : 全般的にとっても良い計画が立てられ、実行もされているが、おそらく問題は市  
民の側にある。いくら旗を振っても市民が動かないといけない。市民をどうや  
って動機づけるか。総合計画のように膨大な計画であれば、細かく区切って出  
前講座や、インターネットで公開するといった方法もある。もう一つ大事なの

はインセンティブ。「行って何になるのか」となるので、なかなか来ないと思う。思いは素晴らしいが、市民の立場で考えて、どうすれば市民が読むか、動くか、ということを考えないといけない。

委員 : 要は広報戦略と広報戦術を多いに活用していくことが大事。全国にたくさんのまちがあるが、表に出てきているまちは素晴らしい広報戦略を持っている。八幡市の場合は、市長は忙しいので、その辺りはプロに委ねる、という方法でも良いのではないか。何でも自分たちでやる、と考えていくと荷物が重くなり前に進まないということになってしまう。第4次総合計画の様々な意見や方向性や結果等を聞いていて、原点に帰って考え直す必要があるのではないかと思う。原点とは、八幡市にいれば「元気」が出る、「元気」がある街でなければならぬということだと思う。街全体が「元気」があって、市民も「元気」を出して街を愛し、街の歴史や伝統を大事にしながら共に楽しい生活を送っていくことを考えていく必要があるのではないか。

委員 : 資料3の21ページの治水対策の推進に関して、「近年、気候変動による局地的豪雨頻発により八幡の市街地域の浸水」の意見で「大雨で浸水しないようにしてほしい」という声が上がっている。今年度、浚渫工事は部分的にされているが、京田辺地域で大規模な開発工事がされ、第二京阪の側道の周辺に防賀川の整備がされた。上津屋の排水ポンプ場の上流域に排水ポンプ場がないがために、より水の勢いが増し、八幡の市街地が浸水するという事態が起こった。防賀川のそばに住んでおり、周辺一体の多くが池のような被害にあった。市の管轄ではないが、木津川堤防補強工事の前に、上津屋より上流域の排水ポンプ場の整備を早急をお願いしたい。

委員 : 基本目標の3・4では、単に健康ではなく「健幸」(健康で幸せな)とか観光を「観幸」(新たな出会いと幸せをもたらす)というふうに表現されている。こういった思いを市民に伝わるよう、また市民に活用されるようしっかり発信してもらいたい。

会長 : では、この6つを出していただいた基本目標をたたき台に進めさせていただきたい。方向についても、いただいたご意見を踏まえて検討していただきたい。

事務局 : 次回の審議会と部会の日程については後日調整する。これで第1回八幡市総合計画審議会を閉会する。本日は長時間に渡り、ありがとうございました。

以上